

【南九州地区納税貯蓄組合連合会会長賞】

税の大切さ

熊本市立西原中学校

二年 右藤 光涼

私が税と聞いて一番に思い浮かんだのは最近行われた参議院選挙だ。私がその選挙についてテレビや掲示板で見た中で印象的だったのは、「減税」や「税の廃止」といった言葉だ。多くの党がこのような言葉を公約としていた。私はそんなに「減税」や「税の廃止」が大事なのかと思い、税について調べてみることにした。私はこれまで税についてはなんとなく知っていて、税の大切さなどもある程度理解していた。そして、最近では物価が上昇していることも感じていたが、「減税」や「税の廃止」をすることで何が良くなるのかは知らなかった。

税とは、年金・医療などの社会保障・福祉や、水道、道路などの資本整備、教育、警察、防衛といった公的サービスを運営するための費用をみんなで負担して出合っている制度のことだ。税には会社からもらう給料や自分で商売をして稼いだお金などにかかる所得税、商品の販売やサービスの提供に対してお客が支払う消費税、その地域に住む人たちが、地域社会の費用を分担する住民税など様々な種類の税がある。この税金の制度はいつできたのか。本格的に始まったのは日本国憲法が公布された時で、税を納めない人が出てくると公平性に欠けるため憲法として定められた。最近選挙で話題になったのは、税のうちでも『消費税』の減税、廃止だ。今、異常気象や戦争などの様々な問題から物価が急激に上昇し、国民の生活が苦しくなっているためだ。

「減税」や「税の廃止」をすることでどのような効果が得られるのか。まず、消費税の減税や廃止をすることで家計の負担が軽減できると言われている。今、物価が高い中では、とても助かることだ。また、減税をすると商品やサービスの価格が安くなるため消費が増え、景気が回復する可能性も出てくると言われている。しかし、これは一時的な効果にすぎないかもしれない。また、消費税を廃止してしまうと、今まで消費税でまかなっていた医療費、年金などがまかなえなくなってしまう。そうすると、今まで利用できていた公的サービスなどが有料化し、逆に負担が増えるかもしれない。

このように税は私たちが生活をしている中で重要な役割を果たしており、「減税」や「税の廃止」にもデメリットがあることを理解しておくことが大切だ。「減税」や「税の廃止」に賛成する人も多いが、その言葉だけを聞いてそれに飛びついてはいけない。

「減税」や「税の廃止」をすればするほど本当に生活が豊かになるわけではない。ただ今の日本やこれからの日本では減税、廃止をせざるを得ないこともあるのかもしれない。その時は極端に、減税や廃止をするのではなく、税の大切さを考えた上で行動していきたい。